奈良産業大学『産業と経済』第20巻第3号（2005年9月）241－249

《資　料》

明治・大正期の高島屋呉服店

武　居　奈緒子

Ⅰ．明治・大正期の高島屋呉服店

前稿で紹介したように，高島屋は，明治期，呉服商兼貿易商であった。今回は，高島屋史料館に所蔵されている資料の中から，呉服部門の資料を掲載する。

まず，京都呉服店の売上高ならびに純益の推移を記載する。

それから，呉服店関係古文書の中でも，「審査覚書」（明治28年）に注目し，紹介する。なぜなら，この期間においては，呉服店の販売面に焦点を当てた研究がほとんどであり，仕入面が軽視される傾向があるからである。呉服店における販売の前提には仕入れがあり，その経営においては，仕入れも重要な要素であると考え，仕入面の資料に着目した。(1)

この資料は，高島屋呉服店が産地の商品について，審査・検討しているものである。高島屋呉服店の仕入機構は，従来は，京都で仕入れ，呉服店で販売するというスタイルを踏襲していた。(2) 関東での産地取引は，明治26年頃開始されたといわれている。(3) これによって，仕入地域は拡大された。この「審査覚書」では，高島屋呉服店が，全国的に商品の綿密かつ専門的な審査を行っていて，産地製品調査のレベルの高さが伺える。当時は，大量生産体制の確立されていない生産段階における仕入れだったので，商品の品質を識別する能力が格別に必要とされた。とりわけ，呉服の仕入れについては，長年の経験と勘による鑑識眼をもった人材が必要不可欠であり，そのようなノウハウ，人材を組織内に蓄積していることが明らかとなる。この資料は，ノウハウの蓄積について，具体的に産地ごとにその特徴をきめ細かく把握していた点で，きわめて貴重である。つまり，それらがあってこそ高島屋呉服店で高級呉服を陳列することが可能となったといえるだろう。

（1）　さらに言うと，この期間のさまざまな販売革新によって，呉服商が百貨店化を成し遂げた側面もあるが，仕入面にも着目する必要があると考える。

（2）　大江善三『高島屋百年史』株式会社高島屋本店，昭和16年，33-35ページ。

（3）　大江善三『高島屋百年史』株式会社高島屋本店，昭和16年，73-75ページ。

II. 高島屋呉服店の売上高ならびに純益の推移

表1 高島屋京都呉服店の売上高ならびに純益の推移

	売上高	純益
明治33年下半期	363,876.963	
明治34年上半期	319,747.785	
明治34年下半期	309,781.180	6,490.180
明治35年上半期	283,960.950	2,324.560
明治35年下半期	292,960.440	3,066.980
明治36年上半期	328,440.550	5,169.970
明治36年下半期	253,151.370	−7,729.410
明治37年上半期	157,187.110	1,376.930
明治37年下半期	—	—
明治38年上半期	—	—
明治38年下半期	392,640.910	33,119.110
明治39年上半期	254,485.290	30,436.610
明治39年下半期	279,581.570	43,832.135
明治40年上半期	273,451.471	29,008.215
明治40年下半期	242,461.015	33,414.800
明治41年上半期	202,780.085	28,741.570
明治41年下半期	200,343.190	27,061.810
明治42年上半期	189,218.060	20,562.970
明治42年下半期	225,608.460	16,360.360
明治43年上半期	203,634.950	14,246.540
明治43年下半期	218,939.815	22,968.400
明治44年上半期	280,701.670	38,127.105
明治44年下半期	217,035.990	33,321.420
大正元年上半期	615,749.690	23,767.270
大正元年下半期	564,320.735	6,321.330
大正2年上半期	540,953.405	−5,626.400
大正2年下半期	592,563.155	22,864.095
大正3年上半期	532,351.030	12,059.850
大正3年下半期	568,863.005	20,491.595
大正4年上半期	566,893.815	15,589.470
大正4年下半期	765,994.220	39,982.425
大正5年上半期	680,288.840	30,150.840
大正5年下半期	797,175.680	46,505.370
大正6年上半期	807,256.455	27,519.350
大正6年下半期	946,903.335	12,729.680
大正7年上半期	1,050,141.840	39,652.745
大正7年下半期	1,250,567.500	33,641.810
大正8年上半期	1,490,008.995	35,012.680

（出所）「京都呉服店棚卸決算表」各期。

III. 高島屋の産地製品調査

東京府	八王寺糸織	綾糸織六十糸織ノ類ハ依然トシテ染織共ニ齊整シ糸織中卓絶ナルモノトス其出品ノ多数ナルニテモ産出ノ多キヲ知ルニ足ル又山糸織風通織モ佳良ナル製品アリ山糸織ハ匹物ニテ織立ルモノ従来価廉ナルモノ多カリシニ近頃漸々上等物ヲ製出ス就中大柄モノヽ絣縞共大ニ見ルヘキモノアリ是等ハ全国ノ時好ニ適シ需用最モ多シ
	黒八丈	依然トシテ変更ナシ独特ノ産物ナリ
	八丈縞	偏陬ノ島嶼ニ於テ製織スルモノニシテ質朴ナル所ニ妙味アリ近来縞ノ柄合等ニ注意セルヲ見ル
	綿織，絹綿交織	染色組織齊整而シテ種々ノ地替リ織アリ就中ニ子織ノ如キハ染色牢実精良ニシテ一種ノ妙味ヲ存スルモノアリ
	綿染物，木綿中形，手拭類	意匠新奇ニシテ染色モ牢実時ニ前々ヨリ多ク用イラレ需用多適ニテ産額実ニ夥多ナリ然レトモ紺地モノハ今一段ノ改良ヲ要ス裏地ハ洋染方多ク品質良好ニシテ販路亦多シ
	岸絣	一般不流行トナレリ昔古ヨリ習慣トシテ上部ノ外見一尺斗リヲ特ニ上等ニ織リ其差太ク全ク別物ノ如シ改良セサルヘカラス又近頃琉球絣ヲ織出シ廉価ノ為可ナリ販路アリ
	袴地	加平次，川越平ハ価廉ナルヲ以需用最多シ本糸物ノ上等ニ至リテハ其販路僅少ナラン乎
	白斜子類	地替リ織各種アリ染地用トシテ産出最モ多シ然レトモ下等品ハ織方軟弱ニシテ染張等非常ニ困難ナルモノアリ是レ安価ノ然ラシムル所ナリト雖モ改良セラレハ将来武州斜子ノ聲価ヲ失墜スル了ナルヲ保セス
	染縮緬	地染更紗小紋ニハ或ハ見ルヘキモノアリト雖モ友仙染ニ至リテハ意匠製作共ニ見ニ足ルヘキモノナシ但出品中上位ノモノハ概シテ京染ナレハ敢テ評セス
大阪府	絹織物染物	他府県製ノモノ多シ宜ナク同地ハ販路地ニシテ生産地ト云ヘカラサレハナリ
	毛糸織	フラン子ル今一段ノ進歩ヲ計ラハ其観舶来ノモノニ異ナラサルニ至ラン
	金巾	太地ニシテ齊整ナリトス尚並金巾ヲモ製造スルヲ得ルニ至ラハ其裨益少々ニアラサルナリ
	綿子ル織織	少シク見ルヘキモノアリ
	モスリン友禅	漸次隆盛ナリト雖モ設色模様等ニ意ヲ致シ今一段ノ進歩ヲ要ス
	厚司地	染織堅牢ナリ
	河内木綿	組織堅牢ニシテ需用モ亦多額ナリシニ時勢ノ変遷ハ従来ノ用ヲ狭メ近来非常ニ衰頽セリ
京都符	紋織物	紋様織方等全体ノ品位及意匠ニ注思シ頗ル進歩セリ故ニ年々其需用増加ス殊ニ価格種々等差アルヲ以テ貴賤共ニ其用甚タ多シ尤モ本品ハ他邦ニ

	在リテモ製織スルモノアリト雖モ未タ曾テ本府製ニ及フモノヲ見ス 近来ノ製織ニ係ル瓦斯繻珍ハ一顧忽チ絹物ノ如キ観ヲ呈ス是レ即チ再整ノ効ニ拠ル而シテ其価最廉ナルヲ以テ販路日ニ拡ル然レドモ輸出向キノ僅少ナルハ遺憾トスル処ナリ依テ泰西ノ実用ニ適スルモノヲ製出シ海外ニ販路ヲ計ルヿ蓋シ肝要ナラン 緞子胴裏地ニ種々ノ人物花鳥景色等ヲ自在ニ織出スハ近頃ノ一考按ニシテ是亦需要最モ多キニ至ル 輸出向彩色織窓掛地非常ノ安価ヲ以テ似絹ノ織物ヲ製出ス染色ヲ精研シ変色ノ憂ヒナカラシメハ需用ニ適シ将来尚販路ノ拡張ヲ見ルヘシ
御召縮緬着尺地	近来風通織ノ需用著シク増加シ通常紋織ノ外色違ヒノ腰慰平目，引返シ羽織，裾模様等ヲ織出シ其意匠ノ注思周到ニシテ京御召ノ名声益高ク随テ産額最モ多シ縞物ニ至リテハ幾分風通織ニ変更セシモノモアラン乎
平糸織着尺地	是亦風通織ノ需用益多シ此他モ前項御召ニ異ナラス縞物ハ綾，斜子，一楽，木縷等ノ諸織方ニシテ一種ノ妙味アリ販路モ亦益広シ尤或ハ緯糸ニ多量ノ糊ヲ用イ堅キニ過クルモノヲ製出スルモノアルハ甚遺憾トスル所ナリ
綿フラン子ル	染色，柄合，地質共ニ漸次改良ヲ成シ輓近ジヤカード機ヲ以紋織ヲ新織スルニ至リ需用最モ多シ随テ追年産額ヲ増加ス又縞柄其他京都多年豊富ノ万般ノ意匠等ヲ応用スルヲ以テ大ニ時好ニ適ス蓋シ是等ハ他府県ニ於テハ難キトスル所ナルヘシ
輸出向紋羽二重	昨年日清干戈ヲ交ルニ方リ諸機業大ニ不振ヲ来シ独リ輸出羽二重ノ盛ンナルアリ爰ニ忽チ数百ノ機業ヲ起シ輸出スルニ至ル而シテ今尚継続スト雖モ他ニ利益ノ之ニ優ルモノアレハ直ニ転シ強固ナラサルヲ以テ自然緊密ナル絹ヲ織出スルノ多カラサルハ実ニ惜ムヘキノ至リナリ依テ斯品ハ群馬栃木ノ後ニ撞着タラサルヲ得サルヘシ
内地向白紋織絹	羽二重，絽，斜子其他ニ地紋ヲ織出シ染地トナスコト近来時好ニ適シ織方亦数種アリテ販路最モ広シ而シテ地方ニ在リテハ此類ノ織物ハ僅少ナリトス
綿織着尺地	明石縮ハ染色地質共ニ齊整シ瓦斯織ノ類又色柄合ノ美ナルヲ以共ニ需用多シ又都織小倉織ノ類ハ漸次其売数ヲ減シ今ハ僅ニ小数機ヲ存スルノミ是レ時様ニ合ハサルニ依ル
繻子	織物会社製ハ染織光沢共ニ善良ニシテ舶来品大差ナシ需用最多ニシテ尤モ輸入ヲ防クニ足ル帯地ハ敢テ異ナルヿナキモ端額ニ意匠ヲ用イ光沢染織モ亦佳ナルモノアリテ販路益広シ
博多	織法ニ至リテハ稍完備ヲ欠ク所アルモ色柄ニ至リテハ時好ニ適スルモノ少ナカラス
半衿	京都特産ニシテ模様賦色等最モ見ルヘシ組合ノ出品ハ都名所ノ図等絵画的ノモノ多シ衿トシテハ太勺不適当ナリ模様ノ方大ニ宜シ模様出品物中ニハ精緻ナルモノアリ又徒ラニ高価ナルモノヲ製造スルモ恐クハ需用少ナカルヘキヲ以テ宜シク其度合ヲ察シ製出スルヲ肝要トス
友禅	模様等ノ意匠ハ近来大ニ進歩セリ染方ニ至リテハ種々軽便ナル新案モア

		リテ需用販路共ニ尤モ多クシテ京都ノ特有品タリ其帛紗地等ニハ佳作アレドモ中ニハ奇ニ走リ不適当ナル考按ノモノアルヲ見ル宜シク下絵意匠等ヲ精研シ友禅ノ優美ナルヲ示スヘシ又野鄙ナル江戸絵ノ如キモノヲ其侭染出ス等ハ最モ排斥スヘシ模様ノ意匠配色進歩スレドモ之ニ反シテ染料之研究及ヒ染料ノ附着スル点ニ乏シ
	縮緬	特ニ新奇ナルモノヲ製出スルハ容易ノ業ニ非ラス足田麻形其他替リ模様ニモ其手際最モ宜キモノアルヲ見ル適用ヲ探究スルモ新ニ使用スルノ点ヲ見ズ亦技術ノ工拙ヲ競フモ新キ技術ヲ見ズ
	モスリン友禅	元来モスリンハ着色困難ナレドモ多年ノ辛苦ニヨリ漸ク染色見ルヘキニ至リ為メニ舶来品ヲ殆ンド防遏スルト模様設色ニハ今一段ノ改良ヲ要ス
	染木綿	無地物ハ先ツ可ナリト雖モ中形木綿ハ東京ニ比シ模様染色更ニ劣レリ呂耐久ノモノアルヲ見ルノミ而シテ大概田舎向多シ当業者奮発シテ京染物ヲシテ他ニ劣ラサルコトヲ勉メサルヘカラス
	刺繍	外人ノ嗜好スルハ今更弁ヲ要セスト雖モ近来技術長足ノ進歩ヲナセシハ其需用之レカ奨励ニ起因ス依テ輸出額追年増加シ今回ノ出品中絶倫ノ大作アルヲ見ルニ至ル商家ノ職工ヲ督励シテ此ニ至ラシム豈其切偉大ナラスヤ尚益進ニテ実用品ニ応用ヲ計ルハ実ニ肝要ナリトス又内地向ニハ精巧ナルモノ僅少ナルハ遺憾トスル所ナリ宜シク内外共ニ其用途ヲ考ヘ益盛大ナランヿヲ望ム
	丹後縮緬	内地向ノモノハ敢テ変更ナク染地トシテ需用多シ輸出向ハ従来数種出品セシヿアリト雖今回ハ紋絹縮其他両三品ニ止マル如何ノモノニヤ且高田織ハ最薄ノ地ニ繻子縞ヲ織出タル・手際手機織織業ニ精ナラサレハ能ハス
神奈川縣	茂木ノ出品ニ羽二重繻子アリ輸出物ノ流行品トモ云フヘキモノニテ光沢地質共ニ宜シ是レ足利桐生ニ於テ製織セシモノナレトモ其考按ハ果シテ出品人ヨリ出タルモノナリト信ス	
	刺繍	輸出向ニシテ淡雅ナルモノアリ又油絵人物縫ノ如キ其縫方織色太勺佳良トス
兵庫県	常盤縞	染色堅牢ナリト雖野卑ナリ又紺絣ニ非常ニ精緻ノ品アリト雖モ常時ニ在リテハ未タ曽テ同品ノ如キモノアルヲ見ス
	鶴羽織	雅味アレドモ産出狭僅少ナリ
	博多	品質佳ナリト雖モ至テ僅少ナリ
	木綿中形	見ルヘキ程ノモノナシ
新潟県	越後縮	特有産物ニシテ他ノ及フ所ニアラス元来原料ヨリ仕揚ケ迄ハ非常ニ困難ヲ要シ積雪不便ノ地ナルヲ以テ畢竟出来得ルモ都会ニテハ迚モ織出セラルヘキモノニ非ラス其組織ニハ色糸ヲ用イサルヲ以テ新奇ノ折柄等ヲ織出スコトハ甚難シ白地幅ニ百余ノ絣ヲ乱壊ナク織出シ又工風絣ニモ見ルヘキモノ多シ最モ絣ヲ以テ長所トス
	好綾	特有ノ絣ヲ以テ種々ノ意匠ヲ擬ラセシモノニテ見ルヘキモノ多シ且絹目ヲ軽ク美シク織出スニ尤妙ヲ得タリ

	糸織，紬縞 節糸織	染織堅牢ノモノ多シ 紬縞ノ類ハ需用最モ広シ
	袴地	京阪ニテハ仙台平ニ代用シテ越後産ヲ用ルモノ多シ其品位モ優劣少ナク先ツ精整セルモノナリ
	綿織着尺地	染織堅牢価格モ又貴カラス
埼玉県	生絹染裏地	本場ナルヲ以テ産額最多シ
	本場秩父縞	両三年前ヨリ販路大ニ開ケ時好ニ適ス染色今一層完成セサルハ遺憾トス
	青縞，川越絣	共ニ可ナリ
	絹綿交織	組織完全時機ニ適スルモノアリ
茨城県	結城紬	出品多シ栃木ニ評スル如クナルヲ以爰ニ贅セス
	木綿縞	和糸ノ紬條ヲ以テ織出セシアリ又洋紐ノ分モアリ而シテ洋紐ノ分最モ多シ何レモ染色宜シ
群馬県	桐生織物者内地向地織ノ如キハ十八年ゟ共進会廿三年持役人持今亦本年材築等追年技術退歩シ之レ乃チ外国向ノ製造ヲ主トスルト云フモ其実輸出モ足利製品ヲ窺モノヽ如シ	
	伊勢崎縞	最モ多額ノ産出モノニシテ需用ハ関西ニ多シ近来関東ニモ流行スト云染色地質共ニ宜シ然レドモ紡績糸ノミヲ以テ織出セシモノハ軟弱ナルノミナラズ伊勢崎ノ本色失フノ嫌アリ在来ノ玉糸モノヲモ今一層増織セハ可ナランカ而シテ京阪地方ニ於テハ男女共ニ本品ヲ用イサルモノナシト云フモ過言ニ非サルモノヽ如シ亦以テ販路ノ広キヲ知ルヘシ是レ全ク組織齊整染色良好価廉ニシテ需用ニ適スレハナリ
	織姫繻子	織染光沢共ニ善良以テ輸入ヲ防クニ足ル有切ノ品ナリ又内地向観光繻子ハ販路広シト雖モ其品質ハ敢テ賞スヘキ極ノモノモナシ
	輸出向羽二重 綾絹類	紋様縞織共完備ニシテ光沢練方共ニ宜シク能ク輸出ニ適スルモノトス
	帯地	博多ハ織方依然トシテ善良ナリ小柳繻子ハ進マス退カス数年一日ノ如シ紋織ニ至リテハ意匠配色共ニ拙劣模様モ亦野卑ニシテ見ルヘキモノナシ風通織ハ稍宜シキ柄合ニテ織方モ佳ナリ又洋模品ノ中ニハ聊カ見ルヘキモノアリ
	着尺地	風通織ハ模様ノ上リ地質共ニ宜シク吉野織ハ販路可ナリ其他ノ糸織ハ敢テ珍重スル程ノモノヲ見ス
	絽	糸質精良販路最モ広シ
栃木県	輸出向紋絹類	曙之縞紋絹ノ如キ洋模品ト雖ドモ最モ精良ナルモノアリ此種ノ織物漸次販路多シ他ニモ類似品アリト雖モ是レニ優ルモノアルヲ見ス
	輸出羽二重	紋，縞，并羽二重共ニ緊密完美ノモノアリ将来益多望トイフヘシ
	木綿縮	内地向ニテ無数ノ織方アリ又瓦斯織ノ美ナルモノ等其種太勺多シ販路モ亦多クシテ他地方ノ及ハサル所ナリ輸出向ノモノモ亦然リトス
	結城紬	紺絣ノ需用最近大ニ増加シ中等以上ノ婦人ニ在リテハ絹ニト不可欠ノ衣裳トナレリ是レ地質染色ノ堅牢ナルト絣ノ揚ケ方ノ宜シキニ依リ時好ニ

		適シタルナリ縞物ノ堅牢ナルニ至リテハ今更弁スルヲ要セス而シテ近頃横糸ニ糊ヲ用イ堅ク織上ルモノアリ是等ハ直ニ切破シ易ク其不信用ハ全体ニ及ホスニ依リ今ニシテ注意セサルヘカラス
奈良県	麻布	近江ノ如ク洋麻ヲ用ルハ僅少ニシテ在来ノ麻多クシテ敢テ変更ナシ出品ニハ随分上等品アレドモ常時織出ノモノナラサルヘシ
	丸唐白木綿	需要最モ多ク産出夥多ナリ
	飛白絣，地白絣	地方ニテハ需用可ナリアレドモ幾分カ減敷セシモノヽ如シ其他ノ縞絣ハ最モ衰頽セリ
三重県	木綿縞	数種アリ何レモ染織純良ナルモノ多シト雖モ稍鄙俗ヲ免カレサルモノアリ又然ラサル佳品モアリトス
愛知県	綿織物	物産組ノ如キ数百機ヲ織出シ染モ亦同組内ニテ任揚ルト云フ其他産出最モ多シ而シテ織方ノ多キ数十種トス假令ハ羽二重織，三糸織，立葛織，美盤織，吉野織，其他ニ子，瓦斯縞等ニテ柄合モ全国ノ需用ニ適スルモノヲ製セリ是レ精粗宜シキヲ得タルモノト云フヘシ
	絹節糸織	近頃製出アリ染織牢実ナリト雖モ稍鄙俗ヲ免レカレス今一段改良セハ漸次販路を開発スヘシ
	竹若ノ博多	筑前ヨリ転織セシナリト熱心ニ各種ニ織替或ハ洋服地，畝織，三ツ折織替リ等アレドモ惜イ哉業尚浅クシテ筑前ニ及ハサルモノアルヘシ
	有松絞	一時衰頽セシモ近来回復ノ兆アリ然レドモ新奇ノモノニ至リテハ稀ナリトス
山梨県	甲斐絹ノ本場ニシテ特産ナリ朝鮮ニ輸出シ内地ニテハ羽織裏地用トシテハ販路上同品ニ優ルモノナシ而シテ爰ニ急務トスル所ハ染色上ノ改良是ナリ従来如何ナル方法ニ依リ染上ヲ為スモノニヤ今假リニ何色ヲ問ハス僅々拾疋ヲ揃フルハ容易ノ事ニアラス此ヲ以テモ其不完全ナルヲ推知スルニ足ル又蝙蝠傘地ハ善良ニシテ需用ニ適シ漸次隆盛ニ達スルナラン	
滋賀県	長濱縮緬	地遣イ糸ヲ用イ組織完整濱縮緬ノ名声ヲ博シ需用頗ル多シ
	麻布	在来ノ麻ハ其少部分ニ止リ近来原料ニ洋麻ヲ盛ンニ織出セリ一見佳観ヲ呈ス為ニ需用多シ尤モ帷子ハ十数年以前ニ比スレハ非常ノ減数ト云ヘシ
	木綿縞	日野物産ハ染織堅牢ニシテ経久ニ耐フモノトス
岐阜県	羽二重縮緬	非常ナル大幅モノヲ出品セリ未タ需用ノ如何ハ知ル可カラサルモ斯業ノ拡張ニ心ヲ致セルヲ見ルベシ
	内地向羽二重，斜子，曽代絽	西陣ニ比シ何分カ価格低廉ナル為メ京都愛知ヘ売出モノ多シ概シテ盛ンナリ
	紋縮緬	近時輸出品トシテ少額ヲ織出居レリ
長野県	白紬，上田縞，結城紬	唯在来ノ侭織出セルノミニテ価格ハ廉ナリ七子紬等ニ非常ニ上糊ヲ為ス習慣アリ如何ノモノニヤ
宮城県	仙台平ノ本場ニシテ有名ナレドモ産額ニ至リテハ実ニ僅少ナリ染織ハ堅牢ナレドモ色柄ニ改善ヲ図ラサルヲ以テ関西ノ販路ハ越後製ニ凌駕セラル他ノ製品ニ鑑ミ改良セハ販路ノ拡張ハ容易ナラン此他八ツ橋織ハンカチーフ等アリ総シテ織方丈夫ナリトス	

福島県	平絹	主ニ紅裏ノ染地ニシテ特有ノ産物ナリ従来封ノ侭売買ヲナス全ク物品ニ不同少ナク信用アルカ為メナリ其他生絹物アレトモ僅少ニ付略ス輸出羽二重ハ完備セシモノアルヲ見ル
山形県	米沢糸織	一時粗製濫造ノ為メ聲価ヲ落シ需用随テ僅少トナリシカ近来大ニ改良ヲナシ面目ヲ改メタリ綾織一楽織鱗織風通織等織法非常ニ進歩セリ就テハ販路モ太勺増加ス唯通常糸織ノ中ニハ粗濫ナル染織アルハ免カレス
	米沢琉球	近来琉球紬ノ世上ノ嗜好ニ適スルヤ本品ノ如キハ価貴カラスシテ色柄共ニ宜シキモノアリ為メニ本場ノ琉球ヨリモ産額ノ多キ丁其幾倍ナルヲ知ラス
	白紋絹類	低廉ノ品多シ価値相應ニ出来タリ上等モノハ略ス
秋田県	白秋田	在来ノ侭ヲ存スルノミ
	黄八丈	稍改良セリト雖モ光沢ニ乏シク柄合モ又其宜シキヲ得サルモノ多シ善良ノモノヲ製出セハ大ニ望ミアリ
福井県	輸出羽二重	品質整備ニシテ非常ノ産額トナレリ他ノ産出者モ同地ヲ標準トナスニ至ル僅々ノ内ニ数倍ニ達ス実ニ長足ノ進歩ヲ成シ名賞ト云フヘシ
	奉書	羽二重ノ為其幾分ヲ減シ品質モ善良ノモノ多カラス
石川県	輸出羽二重	関西ニテハ福井ニ継キ品質モ佳ナレドモ産額ハ遠ク及ハス
	友禅刺繍物	不手際至極ト云ヘシ今回ノ出品中見ル足ルヘキモノ太勺稀ナリトス且実用ニ適スルモノ尠ナシ
	縫ハンカチーフ	工費低廉ノ為メ随テ価格貴カラサルニヨリ需用最モ多シ製作も亦佳ナリトス
	内地向生絹	低廉ノ染地多シ
	麻布	染織ハ堅牢ナレドモ地質ハ遠ク越後ニ及ハス柄合亦近江ニ及ハスト雖又一種ノ味アリ
富山県	横麻織綿	数種アレトモ見ルヘキモノナシ
鳥取，島根県	紺絣木綿	染色堅牢ナレトモ飛白ニ藍気ヲ帯ノ嫌アリ其他縞物等アレトモ評スル程ノコトナシ 従来有名ノ雲伯白木綿ハ染地用ニシテ往昔ハ盛ンナリシモ紡績丸唐等ニ圧セラレ今ハ実ニ微々タリ
岡山県	小倉帯ノ本場ニシテ染織共ニ宜シ常用ニ適ス 他ハ敢テ見ルヘキモノナシ	
広島県	博多	稍見ルヘキト雖モ数量尠少ナリ
	黄紬縞 山繭縞	一種ノ雅致アルモノトス
	他絹織物アレドモ所謂田舎ノ手織物ニ過キス	
山口県	岩国縮	近時稍改良ナシタレドモ未タ鄙俗を脱セサルモノアリ
和歌山県	綿フラン子ル	率先タリ産出最多数ナリト雖も品位ハ西陣ニ一歩ヲ譲ルモノヽ如シ

徳島県	阿波縅	特産ニシテ柄合佳ニシテ販路モ広シ
香川県	保多織	特産トスルノミニテ他ニ評スル程ノモノナシ
愛媛県	伊予絣	需用多シ其組織完整ナレドモ久留米ニハ一歩ヲ譲ラサルベカラス
	白子ル，チヽラ織	善良ノモノアリ
福岡県	博多	博多ノ本場ナリ一時ハ非常ニ衰頽セシモ数年以前ヨリ大ニ面目ヲ改メ織法設色ニ工夫ヲ凝ラセシモノ多シ袴地ノ如キモ特有ノ鐲鈷ヲ紐部ニ織込等注意到レリ又五尺幅ノ献上博多ヲ織リ絵画織ノ屏風ノ如キ熱心ハ承知スヘキモ其用途ノ如何ヲ知ラズ
	久留米絣，縞	共ニ販路大ニ開ケリ褪色ノ憂ヒモ少ナク組織モ宜シク紺絣中最多ノ産出ト云フヘシ近来吉野織亦好評ナリ
	木綿絞リ	製作至極可ナレドモ高価ナルノ故ヲ以需用少ナク随テ産出僅少ナリ今一段安価ノモノモアラハ販路ナシトセス
大分県	博多	筑前ニ及ハスト雖モ佳品アリ又輸出向ノ羽二重ヲ織出セリ此地近頃織物ニ着目セシヲ見ルヘシ
熊本県	毛織綾織其他都テ染織	齋整牢実ノ品トイフヘシ尚都会ノ需要ニ適スル色柄ニ注意ヲ要ス
鹿児島県	薩摩絣授産場製其他紺色飛向地質	堅牢ナリ
	大島紬	特絶ノ佳味アルニヨリ需用頓ニ増加シ絣モ緻密精作ナルモノアリ漸ク産出ノ増加ニ伴ヒ粗製濫造ノ弊ヲ生セサランヿヲ勉ムヘシ
宮崎，長崎，高知	右諸県ニ絹綿織物アレトモ商品トシテ見ルヘキモノ甚タ稀ナリトス	
沖縄県	紺地，白地上布，八重山，芭蕉布	一種ノ雅致ヲ何ヲ以近頃木綿需用最モ多シ出品ノ売約第一着ニ終リタルヲ見ルモ世上ノ嗜好ニ適スルヲ証スルニ足ル爰ニ注意ヲ要スルハ売布ハ短尺ニシテ満足ヲ欠キ貢物ハ柄合数ケ年同一ニシテ進歩ヲ知ラサルモノヽ如シ而シテ紺ノ香気ノ宜キ他ニ及フモノナシ
	琉球紬	往昔ノ風ヲ存シ且自ラ佳味アリ

（出所）「審査覚書」（高島屋史料館所蔵史料）より作成。